我が友愛會の如き既存の勞働團體に對抗して是れが絕滅を計らんとする一方、將來自己の會社礦山等に眞の勞働團體の發生する事を未然に防がんと欲するのである。其名は勞働組合であるけれ共其實は資本家の利益を擁護する資本家組合である事は論を俟たない。

然らば今日多くの勞働者は何故に眞に自己の利益にならないばかりでなく、眞の勞働組合の發達を防ぐる如き組合に加入するのであらうか。それには種々なる原因があるが大體は左の三點に歸すると思はれる。

第一は何と云つても勞働者の今日明日の生活の綱が資本の手に掌握されてゐると云ふ事である。彼等は會社の役員から睨まれる事に依つて明日の生活の資料を奪はれるのである。現在の勞働者は殘念乍ら實に弱い。會社から睨まれたくないと云ふのは、今日多くの勞働者の心の一角に蟠居してゐる哀れな弱い心である。

第二は彼等の無智である。今日の勞働者は未だ階級的に自覺してゐないのみならず彼等は自己の大きな目的を自覺せず只目の先きの利益にのみ走りやすいのである。彼等は彼等の大きな目的を知らず又自己の地位を向上せしむべき手段を知らない。又彼等は一面に於て猜疑心が常に强いけれ共其反面に於て又非常に信じ易いのである。彼等は見す〳〵甘言に乘せられて一杯食はされるのである。馬鹿切つた手に乘せられてひどい目にあはされる。野心的政治家、資本家、勞働ブローカー（勞働者を食ひものにする連中）等につけ入られ易いのは此點にあるのである。

第三には彼等の助平根性である。彼等の心の反面を探つて見れば未だ多量に會社に對する助平根性を有してゐる。あはよくば會社の恩典に浴しいゝ位置にありつきたいと云ふ期待を待つてゐる。

資本家は其權力と智惠とを以て勞働者の此弱さと無智と助平根性とを巧みに利用して所謂縱の組合を設立し、勞働者は其弱さと無智と助平根性とを利用されて自分で自分を縛する如き行動をなすのである。資本家が斯くの如き組合を設立せんとする場合